

## 会議事項 2

## 第 1 回定例会（5/19）で話し合われたこと

- 個人の活動を大事にし、共通テーマを設ける
- 共通テーマとして「つながり」「多様性」に係るものとする。
- 共通テーマは一つには絞らない。
- ※個人の活動を深める中で、それぞれで共通テーマを深めたい。
- （例）地域社会でどう「つながり」を作っていたらよいか  
多様性への理解を深める社会をどう作っていたらよいか。

## I 昨年までの研究調査について

「ひきこもりとなり、社会参加ができなくなる前の段階で社会教育委員としてかかわれること」

## ○私たちがこの研究調査から学んだこと

## (1) ～つながりを作る身近な施設・地域社会～にかかわって

## ① 青少年を孤立させない支援者や仲間が身近にいる居場所

NPO 法人ぱーむぼいす・就労支援ほっぷすてっぷ JOB college「ジョブカレ中野」の視察から～令和元年 12 月～

施設内実習を見学させていただいたとき、ボルトの座金組み込み作業をする生徒の傍らに、2 年間続けた工場勤務をやめたいと戻ってきた 20 歳の男性がいました。その男性について近くにいた進路担当のスタッフからお話を聞くことができました。「やめたいということを知って私はすぐに『昼飯でも食いに来い』と誘ったんです」と。まさにグッドタイミング。そして、その男性は今、同じような経験を持つ 28 歳の先輩に励まされアドバイスをもらいながら復帰を考えているようです。

## &lt;本事例考察&gt;

もし、この 20 歳の男性が辞めたい気持ちを持ちながら孤立してしまったら・・・そう思ったらゾッとしました。当事者に寄り添いながら同じ目線に立って話すことのできる支援者、同じような経験を持ち気軽に何でも話せる仲間。孤立しがちな青少年にはそんな居場所が身近にあることが大切です。

## &lt;備考&gt;

- 視察で池田剛理事長から、就労支援事業の概要についてお話をお聞きする中で「中野市から通う生徒も多く、冬は通うのに困難をきたしている。ジョブカレ飯山をぜひ中野市にも開設したい」という強い願いを話された。参加した社会教育委員からは「あそこ空き家じゃなかった？あそこいいんじゃない？」などと口々に意見が出された。翌年、

まいさばなど中野市の支援で、元県の建設事務所施設をジョブカレ中野として借りられるようになった。

- この事業の対象者は、おおむね高校卒業後から 29 歳までの青少年だそうです。令和 5 年度在籍者はジョブカレ飯山で 9 名、ジョブカレ中野で 9 名だそうです。令和 4 年度末卒業生の進路状況は、12 名中、就職できたのは半数の 6 名だそうです。

② すべての従業員が孤立せず、仲間を意識できる職場環境

「山ノ内町渋温泉 春蘭の宿さかえや」の視察から～令和 2 年 10 月～

さかえやでは、ひきこもり・不登校経験者や障害のある人を従業員として積極的に雇用しています。社長さんは「すべての従業員が孤立せず、仲間を意識できるようになってほしい」と願って対策をとっています。その一つが「春蘭通信」です。ひきこもりの経験のある M さん（20 代・女性）が今その通信の編集長を務めています。M さんは次のように書いています。

さかえやでは、ハガキを書くことを大切にしています。お世話になった方への「ありがとう」、しばらく会っていない方への「元気ですか」、大切な人の姿を思い出して「どんなことを書いたら喜んでもらえるかな」と考えると、わくわくしてきます。一生懸命書かれたはがきは、受け取った人の心にも、ぼっと灯りをともすかもしれません。

<本事例考察>

社長さんが「このような同僚同士のつながりが従業員ひとり一人の働く支えになっています」と胸を張っておっしゃられるように、従業員ひとり一人が働く支えとともに意欲にもなっているように思います。

(2) ～多様性を認める職場・社会～にかかわって

①得意を認め、仕事に反映させる職場環境

「山ノ内町渋温泉 春蘭の宿さかえや」の視察から～令和 4 年 9 月～

一般に、ホテルのチェックアウト後の客室片付けから迎え入れるための準備作業といたら、2 人 1 組になってすべての段階の仕事をその 2 人だけでやるのですが、さかえやさんは違うのです。「掃除機で掃除をするだけならやれる。それなら活躍できる」従業員のために、まず、ゴミ箱にあるごみの処理、布団たたみ、浴衣・敷布・枕カバーの取り外し、換気・消毒などをしながら床や畳の上にあるものすべてを机や棚の上に載せるのです。そして、床や畳のお上には何も無いようにして、掃除機で掃除をする従業員へバトタッチするのです。

<本事例考察>

社長さんは「相手を認め、相手の立場に立つこと。そして、きめ細やかな多様な考えを

持つこと」と繰り返しおっしゃっています。従業員ひとり一人の個性をよく見、認め、仕事に反映させていることがよくわかります。このことが、働きやすい職場、広げて、生きやすい社会に繋がっていくのだらうと思いました。

## II 今後の、上記2つの共通テーマについて～意見交換～

### (1) つながり

私の住んでいる延徳（大熊区）では、高齢者の集いとして「飯盛松、ひだまり」の会を毎週木曜日に開催している（ここで3年目を迎える）。70代後半のS夫妻が中心となって「ボッチャで遊ぼう」、「健康体操」、「昔懐かしいビデオを見よう」などの内容を企画している。公民館だけでなく、ご夫妻の自宅を「憩いの場・縁側」として開放している。

5月末、私も「朗読とギター弾き語り」で参加させていただいた（30名程の高齢者が参加）。高齢者が交流を深める大事な場となっており、お互い「そこそこ」顔が見える魅力的な地域づくりがこれからも期待できる。また、高齢者支援課等、市でもこの活動を応援・注目している。